



# Webライター 養成講座

produced  
by Hayakawa

無料体験セット



## 無料体験セット 目次

---

Lesson1 テキスト …P.3

---

Lesson1 課題 …P.14

---

Lesson1 添削事例集 …P.20

---

Lesson2 添削事例集（※一部抜粋） …P.27

---

## レッスン内容

Lesson1では、Webライターを目指す際の基礎となる「Webライティングの基本」と「ライターとしての心得」を学びます。

### 1-1. Webライティングとは

#### ◇Webライティングの基本

「Webライティング」とは、Web媒体に最適化したライティング技術のこと。  
まずは、従来の紙媒体向けのライティングと、Web媒体向けに最適化されたWebライティングの共通点・相違点を整理しましょう。

#### 共通点

- 読み手を意識し、わかりやすい文章を書く
- 与えられたテーマや条件に沿って、読者の心に響く文章を書く
- 情報収集を正確に行い、オリジナリティのある文章を書く

#### 相違点※紙のライティングにはないWebライティングの特徴

- SEOを意識し、キーワードを含めた形で優れた文章を書く

SEOとは、Search Engine Optimization（検索エンジン最適化）の略。一言でいうと、GoogleやYahoo!などの検索エンジンで、対象となるWebページを、検索結果の上位に表示させるための技術のことです。

インターネット利用者の多くが、検索エンジンを利用して情報を探しており、SEOの知識はWebライティングに不可欠なものとなっています。紙媒体のライティングとWebライティングのもっとも大きな違いが、このSEOです。

SEOは常に進化しており、最新のSEOの知識を身に着けたWebライターは、ライター市

場で高く評価されています。

(※「SEO」については、Lesson4で詳しく学習します。)

#### □記事の賞味期限が紙より長い

新聞や雑誌の記事は、時間の経過とともに新しい号が出版され、過去の記事が人目に触れる機会は急速に減っていきます。

一方でWebサイトの記事は、ひとたびWeb上に公開されると、書かれた日付の新旧問わず、長期にわたって読まれる傾向があります。そのため、数年前に書いた記事の内容が、ユーザーに不利益を与えてしまうことがないように、日時情報やデータへの注釈の入れ方などを意識する必要があります。

(※ライティングの基本については、Lesson2で詳しく学びます。)

#### □情報同士をリンクでつなぐことができる

Web媒体は、情報をハイパーリンクでつなぐことができます。記事の内容に関連した情報や、おすすめの商品・サービスなどを紹介する際は、サイトへのリンクを併記することで、ユーザーがより詳しい情報にたどり着く。この特性を利用して、ユーザーに様々な提案をできるのがWebライティングの特徴です。

## 1-2. ライターとして絶対に守るべき3つのルール

ライターとして仕事をしていく際、絶対に守らなければいけない3つのルールがあります。以下の3つのルールは、ご自身のライターとしての信用を守るためにも必ず遵守しましょう。

### ★第3者の文章を盗用しない

プロライターとして、最もやってはいけない行為が文章の盗用です。ライティングは想像以上に大変な作業です。思い通りの文章が書けない場合など「今回だけなら」「この程度であれば」という気持ちが出てくることもあるでしょう。しかし、プロとして仕事をするのであれば、第3者の文章をそのままコピーすることは絶対にしてはいけません。もしも、それが発覚した場合、著作権法違反に問われるだけでなく、ライターとして最も大切な信用を失うことになってしまいます。

## ★第3者の考えを盗用しない

第3者の文章を盗用してはいけないのと同じように、第3者の考えを、そのまま自分の考えのように発表してはいけません。なんらかの形式で公に発表されている第3者の考えをそのまま自身の考えとして盗用してしまうと、著作権上の問題が発生します。

### ✓リサーチを行い、自分の考察を盛り込んだ上で記事を作成していても、他の記事と似通ったものになってしまった場合は盗用になるのでしょうか？

様々な事象を踏まえて自分の考え方を整理し、自分なりの考察を盛り込んだ上で記事を作成した場合、既存記事と似通った構成や内容になってしまっても、大きな問題はありません。

常にどこにもない革新的な記事を書けるに越したことはありませんが、ライターが担うライティング業務の多くは、先に書いている人がいるものです。それを盗用するのはもっての外ですが、様々なデータや参考記事をまとめ、記事を書いていくと近しい内容になることは起こり得ますし、それを過度に気にすると記事を書けなくなってしまいます。

正しいリサーチに基づいて自分の考えを整理し、引用のルールを守りながらしっかりと記事を書いたのであれば、自信を持ってその記事をリリースして問題ないでしょう。

※著作権法の観点からも刑事罰は、故意に他人の著作権を侵害した場合を対象としており、偶然似てしまった場合は罪に問われません。


ただ、あまりにも似通ってしまうと「盗用」や「パクリ」の指摘を受ける可能性もゼロではありません。そのような事象を起こし、信用を失わないためにも、ライターは記事に向き合っていくことが大切です。

## ★引用ルールを守る

参考文献として各種統計データや書籍、Webサイト等を利用する場合は、必ず出典を「引用元」「参照元」として明記する必要があります。また、引用した文章を改変してはいけません。

以上がライターとして絶対に守るべき3つのルールです。Webメディアの中にはこれらのルールを破ったことが原因で、信用が失墜した例が多々あります。このことによる損害額は天文学的數字です。ライターに過失がある場合、損害賠償請求される可能性もあるので、十分に注意しましょう。

**【記事盗用の実例】MERY（メリー） - 記事や画像を盗用**



2016年12月、キュレーションサイト※「MERY（メリー）」が掲載記事の約8割（13万件）に問題があったとしてWebサイトの公開を中止しました。

運営会社のペロリはIT企業大手DeNA（ディー・エヌ・エー）の子会社。2016年11月、同じくDeNA傘下のキュレーションサイト「WELQ（ウェルク）」において事実と異なる内容の医療記事が問題視され、これをきっかけにDeNAは運営する10のWebメディアを休止せざるを得なくなりました。

MERYでは、本人許諾のない画像を使用したとされる記事が約10万件、文末以外はコピーアンドペーストされた文章を掲載した記事が約1万件あったことが明らかになっています。

※キュレーションサイト・・・インターネット上の情報を、テーマに添って収集し、まとめたWEBサイト。「まとめサイト」とも呼ばれる

参考：問題案件11万超 DeNA著作物パクリの「ケタ外れ」  
<https://mainichi.jp/premier/business/articles/20161208/biz/00m/010/004000c>

キュレーションサイト（まとめサイト）をはじめとするWebメディアの記事は、企業が外部のライターに執筆を依頼するケースが少なくありません。今後、皆さんがWebライターとして活躍することを目指すのであれば、様々なWebメディアから記事の執筆依頼を受けることになるでしょう。

DeNAの報道をきっかけに、Webメディア業界は、著作権侵害に対して非常に敏感になっており、著作権の知識や引用ルールを理解していないライターには、執筆依頼を避ける動きが強まっています。

ライターとしての倫理的な観点からはもちろん、今後のライター活動に悪影響を与えないためにも、「著作権法」や「引用と盗用の違い」については、しっかりとマスターしておくことが大切です。

6

### 著作権とは？

著作権とは、知的財産権の一つで、著作物を保護するための権利です。ここで言う著作物とは、思想または感情を創作的に表現し、文芸・学術・美術または音楽の範囲に属するものを指します。具体的には、小説・音楽・美術・映画・コンピュータプログラム等が、著作権法上の著作物の例として挙げられます。一方で官公庁が作成する一定の文書（※国民に現状を広く知らせるための資料）は、著作権の目的にならないと規定されており、著作権法違反を問われることはありません。

著作権法は定期的に改正を行っており、平成 16 年の一部改正による罰則強化で、違反すると個人は 5 年以下の懲役、500 万円以下の罰金を併科（※2 つの罪を適用）できるようになりました。さらに平成 30 年の一部改正で非親告罪化され、著作権者が訴えるつもりはなくても処罰可能になるなど、厳罰化が進んでいます。

## 1-3. 引用のルール

引用のルールについては、著作権法のほかに、文化庁からもガイドラインが発表されています。そのなかでも特に重要な部分は以下の通りです。

### ①引用部分を明確に示す

色を変える、カギカッコをつけるなど、引用部分が明確にわかるようにしなければなりません。

### ②出所の明示が必要

Web であればページのタイトルと URL を、書籍であれば書名と筆者を最低でも記載しましょう。

### ③引用部分はあくまでもサブ要素

記事の大半が引用で、ライター独自の意見も見られないというケースは NG です。あくまでメインは自分のオリジナル文章であることを意識しておきましょう。

#### ④引用する必然性がある

記事の内容が深まる、違う意見を紹介できるなど、引用には何らかの意味が必要です。

参考：著作権に関する教材，資料等 | 文化庁

<https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/kyozai.html>

##### ×盗用として訴えられる可能性あり

- ・他者の記事をまるまる盗用し、記事として納品した（引用元が明記されていても NG）
- ・海外メディアの記事を、許可を取らずに翻訳した（引用元が明記されていても NG）
- ・引用元を明記せず、自分のオリジナル記事だと誤解されるような形で記事を作成した
- ・他者のブログから画像を引用し、オリジナル記事に添付した（フリー素材を除く）
- ・他者が収集したデータを記事に合わせた形で改ざんした

##### △トラブルに発展する可能性あり

- ・参考にした記事と文章は異なるが、まったく同じ構成の記事を作成した
- ・客観的に見て、引用部分の文章が記事のメインの内容になっている

##### ○問題なし

- ・参考になるブログ記事の一部を、オリジナル記事の補足として引用元を明記して引用した
- ・参考になるブログ記事の内容を、自分の文章でまとめ、それに対する意見を記載した

##### ✓海外メディアの記事を、許可を取らずに翻訳して掲載するのは NG？

海外の作品・文章を日本語に翻訳し、掲載・出版するには、原則として翻訳権を取得する必要があります。（※使用料を支払わなければならない場合も）

翻訳した文章にも原文と同じく著作権があり、少なくとも引用としての要件を満たさなければ、原文を転載するのと同じく著作権違反に当たることもあるためです。

たとえ引用元を明記していたとしても、原文の著作権が帰属する団体・個人の許可なく



翻訳し、掲載することは盗用として訴えられる可能性があります。  
その他にも、海外メディアの原文内容を取りまとめて要約し、日本語で掲載することも翻訳権の侵害になってしまうため注意しましょう。

## まとめ・・・ Lesson1 で学習したこと

### ★Webライティングと紙媒体のライティングの相違点

---

#### ・共通点

- 読み手を意識し、わかりやすい文章を書く
- 与えられたテーマや条件に沿って、読者の心に響く文章を書く
- 情報収集を正確に行い、オリジナリティのある文章を書く

#### ・相違点

- SEO (Search Engine Optimization ※Lesson4 参照) を意識し、キーワードを含めた上で、優れた文章を書く
- 記事の賞味期限が紙より長い
- 情報同士をリンクでつなぐことができる

### ★ライターとして守るべき3つのルール

---

#### ① 第三者の文章を盗用しない

第三者の文章をそのままコピーをしてはいけない。

#### ② 第三者の考えを盗用しない

第三者の考えを、自分の考えのように発表してはいけない。

#### ③ 引用のルールを守る

引用する情報の出典を「引用元」「参照元」として明記する。また、引用した文章・データは改変しない。

### ★引用のルール

---

**① 引用部分を明確に示す**

文字色を変える、カギカッコをつけるなど。

**② 出所の明示が必要**

Webの場合はページタイトルとURL、書籍の場合は書名と筆者を記載する。

**③ 引用部分はいくまでもサブ要素**

記事の大半が引用で、ライター独自の意見が見られないものはNG。

**④ 引用する必然性がある**

記事の内容が深まる、違う意見を紹介できる等、引用には何らかの意味が必要。

## vol.1 本を読む

文章力アップに役立つ情報をお届けする「School×Work」コラム、第1回目のテーマは、本を読むことについてです。

「書く力をつけるためには読書が大事」とは、よく言われます。実際のところ、**読書は表現の引き出しを増やし文章力をアップする上で、大変効果的です**。また日本語の理解や文章力の成長スピードも、読書をしている人のほうが早い傾向があります。

「School×Work」受講生の皆さんの中には、普段から本をよく読む方も多いたらず。反対に、書くことは好きだけれど、本はあまり読まない…という方は要注意です。雑誌でも構いません。日常生活の中に読書を取り入れましょう。

それでは、ライターにとって、どのようなジャンルの本をどのように読むことが効果的なのでしょう？

今回のコラムでは、そんなテーマに沿って読書に関する雑感をお伝えできればと思います。

### 実用書・ビジネス書

#### How-to books & business books

ライターにとって文章に関する気づきが多い本は、実用書・ビジネス書です。

実用書とは、日常生活で役立つ知識や技能を解説する本。主に暮らし・健康・趣味などがテーマになっています。

ビジネス書は、文字通り、ビジネス関連の知識や技能に特化した本。社会人をターゲットにしているものが多いですが、“メモの取り方”のような、読む人を選ばないテーマのビジネス書もあります。

#### ◆どう読むか？

**実用書やビジネス書で注目したいポイントは「わかりやすさ」**です。ご自身が読んで、わかりやすいと感じた本は、そのままライターとして目指すべき文章のお手本にできます。

わかりやすい文章には、内容を端的に伝えるための様々なテクニックが使われています。

「結論を先に言う」、「一文は短めにして内容を盛り込みすぎない」等は、比較的気づきやすい文章テクニックでしょう。

わかりやすい文章を書くための技術は「School×Work」でもお伝えしますが（Lesson2：文章力を鍛える）、もろもろの文章技術を「こういうふうにするのだな」と実例つきで理解できるところが、実用書・ビジネス書の良い点です。

もう1つの注目ポイントは、「著者の考えや体験」が語られている箇所。ここに共感できるかできないかによって、その本の印象が大きく変わります。ライターにとって、より学びが大きいのは、「共感できなかった部分」です。読んでいて「ちょっと違うな」と感じたときは、なぜそう感じたのか、どの部分がマズいのかを分析しましょう。さらに、自分ならどう書くかも考えてみる（実際に書いてみなくても）と、文章構成の練習にもなります。最後にAmazonなどのレビューで、ほかの読者の意見もチェック。おそらく、自分と同じ感じ方をしている人もいれば、そうでない人もいるはず。異なる意見の読者は、どのような部分に注目しているかを見ると、色々な読者の視点を獲得できます。

## 小説

### Novels

読書といえば、もっぱら小説を読んでいる、という方も多いでしょう。ただし、文章力を磨くことが目的の場合、小説は、やや取り扱いが難しい本と言えます。

小説では、作家が持つ独自の文体（個性）が、ストーリーの魅力を高めており、すぐれた小説では、本の内容と同時に、文体が鑑賞の対象となることが珍しくありません。

一方で、ライターの文章は、多くの場合、情報を伝える手段として用いられます。求められるものは、「わかりやすさ」と、それを支える「文章技術」。小説のような個性はなくても支障がないばかりか、強い個性はスムーズな情報伝達の妨げとなってしまうことさえあります。つまり、ライターが小説をお手本にする際には、文章の中で、どこが技術的にすぐれている箇所であり、どこが作家の個性の発露なのかを見極める必要があるのです。

では小説は文章のお手本には一切ならないのか？という、そのようなことはありません。多少の効率の悪さをいとわなければ、小説から学べることも数多くあります。

#### ◆ どう読むか？

ライターにとって、小説は、語彙力と表現力に関する気づきの多い本です。知らない単語や語句が出てきたときは、語彙力を鍛えるチャンス。そのつど辞書を引き、意味をチェック

しましょう。また、同じものを別の言葉で表現する「比喻」や「言い換え」も豊富なので、こちらにも語彙力の強化に役立ちます。

また、文章のリズムにも注目してみましょう。すらすらと読める小説は、作者が言葉のリズムに気を配っていることが多く、読みやすい文章のヒントになります。

さらに、作者の視点を意識した読み方もおすすめ。作中のストーリーを追う一方で、場面設定・登場人物の会話や動作・情景描写などに目を向けてみましょう。なぜ、この場面でこの言葉を使っているのか、この描写にどんな意味を込めているのか等、書く側の視点で文章を眺めると、読者視点では得られなかった文章上の工夫を発見することがあります。ただし、すべての小説で上記のような読み方をすべきか、というと、その必要はありません。中には、ひたすらストーリーにのめり込みたい小説もあるでしょう。そのような小説は、純粹に楽しんで読むことをおすすめします。

『Webライターコラム』、1回目はライター視点で本を読むことについての雑感をお伝えしました。

とはいえ、本は原則的に、娯楽や好奇心・情報収集のために読むものです。プロのライターであっても、毎回、このような本の読み方をしているわけではありません。ただ、普段の読書に加えて、文章技術面からの読み方も知っておくと、一冊の本から、より多くの気づきを得ることができます。

Webライターを目指す皆さんは、ぜひ一度、このようなライター視点での読書にも挑戦していただければ幸いです。

(Webライター 長尾尚子)

※次回コラムは「新聞・雑誌の読み方」についてお伝えします。

## Lesson1 課題

### 【課題 1】 ※全講座共通

下記の枠内の文章は、ある WEB ページに掲載された文章です。

著作権や引用のルールを正しく守っている場合は○を、守っていない場合には×を書き入れましょう。

#### ■ 課題 1-1

=====

今週のおすすめ本

『わたしのマトカ』 著：片桐はいり 出版社：幻冬舎

個性派女優として活躍する筆者が、フィンランドを旅した経験を語るエッセイ。フィンランドを舞台とした映画「かもめ食堂」の撮影中、各地を旅し出会った出来事をユーモア溢れる視点で描きます。

ちなみに、タイトルにある「マトカ」とは、フィンランド語で「旅」のこと。温かみがありつつ、どこかユーモアを感じさせる文章は読みやすく、フィンランドを身近に感じることができます。

クスッと笑えるエッセイや旅行記を読みたい方、北欧好きの方におすすめの一冊です。

※「おすすめ本 | クチコミランキング」からあらすじを引用

<http://kuchiran.jp/ct/book.html#nonf>

=====

〈答え〉

〈理由〉

## ■ 課題 1-2

=====

高校受験を控えた中学生の子供の不登校に悩む親のなかには、「出席扱い制度」を利用し、出席日数を確保したいと考えている方も多はず。

出席扱い制度を利用するには、文部科学省の定める「不登校」にあたるかどうか重要なポイントです。まずは、文部科学省による「不登校」の定義について確認してみましょう。

▽「不登校児童生徒」とは

“何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの”

引用：不登校の現状に関する認識—不登校とは（文部科学省資料 PDF より）

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/futoukou/03070701/002.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/futoukou/03070701/002.pdf)

（文部科学省「不登校への対応について」ページに掲載

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/futoukou/main.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/futoukou/main.htm)）

ちなみに病気やケガ、障害を直接的な理由とした30日以上欠席の場合は、「病欠」扱いになり、「不登校に該当しない」として判断され、出席扱い制度の適用が認められないケースがあります。

不登校児童の数は増加傾向にあり、文部科学省は、様々な施策に取り組んでいますが、目立った効果を上げられていないのが現状です。出席扱い制度は、事情があり学校にいけない子が受験の際、不利にならないための仕組みであり、問題の根本を解決する手段ではありません。

これから先、重要になってくるのは、不登校児童を増やさないための取り組みに加え、学校に戻りたいと思える仕組みを整えることでしょう。

子供が不登校になる理由は様々ですが、その問題を特定し、効果的なアプローチができれば、一定数は学校に復学できるはずですが、文部科学省はもちろんですが、学校や家庭が一丸となってこの問題に取り組み、右肩上がりが増え続ける不登校児童の数に歯止めをかけなければいけません。

子供は今後の日本を支えていく宝です。その宝を守るための労力を惜しむべきではないでしょう。

=====

〈答え〉

〈理由〉



## 【課題 2 : School×Work 作文課題】

あなたが理想とする Web ライター像について書きましょう。

※文字数：厳密な指定はありませんが、350～400 字程度を目安にまとめてください。

※この課題は現時点での文章力チェックを兼ねています。自分にとってベストな文章を作成しましょう。

### 【記入欄】

## 【課題2 : Start-up カウンセリングシート】

受講動機、ライティングの悩み、目標・改善したいポイント等を文章形式で記入してください。

※文字数：厳密な指定はありませんが、300～400字程度を目安にまとめてください。

※この課題は現時点での文章力チェックを兼ねています。自分にとってベストな文章を作成しましょう。

【記入欄】

--

=====

【Lesson1 課題提出前にチェックしてみましょう】

- Webライティングの基礎を意識できた
- ライターとして守るべき3つのルールを理解できた
- 引用のルールを理解できた

=====



# Webライター 養成講座

produced  
by Hayakawa

---

---

## 添削事例集 Lesson1

---

---



## 課題

## 01

下記の文章は、ある WEB ページに掲載された文章です。  
著作権や引用のルールを正しく守っている場合は○を、守っていない場合には×を書き入れましょう。

## 1-1 課題

今週のおすすめ本

わたしのマトカ 著：片桐はいり 出版社：幻冬舎

個性派女優として活躍する筆者が、フィンランドを旅した経験を語るエッセイ。フィンランドを舞台とした映画「かもめ食堂」の撮影中、各地を旅し出会った出来事をユーモア溢れる視点で描きます。<sup>①</sup>

ちなみに、タイトルにある「マトカ」とは、フィンランド語で「旅」のこと。温かみがありつつ、どこかユーモアを感じさせる文章は読みやすく、フィンランドを身近に感じることができます。

クスッと笑えるエッセイや旅行記を読みたい方、北欧好きの方におすすめの一冊です。

## 引用元：「おすすめ本 | クチコミランキング」

個性派女優として活躍する筆者が、フィンランドを旅した経験を語るエッセイ。フィンランドを舞台とした映画「かもめ食堂」の撮影中、各地を旅し出会った出来事をユーモア溢れる視点で描く。農場へ泊まりに行ったり、フィンランドサウナを体験したり、強烈な味で有名な「サルミアッキ・ウォッカ」に挑戦したり……。本業は女優ながら、文章がまとまっており読みやすく、筆者の素直で温かみのある人柄が伝わってくる。時に笑い、時に感動し、筆者と共にフィンランドを旅したような気持ちになれる一冊。

## 答え



引用された文章を、かぎ括弧などで明確に示していないから。(参照：Lesson1 テキスト P4)  
また、引用文の語尾を勝手に改変しているから。(参照：Lesson1 テキスト P6)

## ① 引用文の語尾改変

この問題で引用されている部分は、「個性派女優として活躍する筆者が、～溢れる視点で描きます。」の部分。(黄色マーカー部分)しかし、引用元の文章を見ると、「個性派女優として活躍する筆者が、～溢れる視点で描く。」となっており、引用部分がかぎ括弧などで明確に示されていないことに加え、引用文の語尾が改変されています。

## 1-2 課題

高校受験を控えた中学生の子供の不登校に悩む親のなかには、「出席扱い制度」を利用し、出席日数を確保したいと考えている方も多はず。

出席扱い制度を利用するには、文部科学省の定める「不登校」にあたるかどうか重要なポイントです。まずは、文部科学省による「不登校」の定義について確認してみましょう。

▽「不登校児童生徒」とは

“何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間 30 日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの”

引用：不登校の現状に関する認識—不登校とは（文部科学省資料 PDF より）

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/futoukou/03070701/002.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/futoukou/03070701/002.pdf)

（文部科学省「不登校への対応について」ページに掲載

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/futoukou/main.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/futoukou/main.htm)）

ちなみに病気やケガ、障害を直接的な理由とした 30 日以上の欠席の場合は、「病欠」扱いになり、「不登校に該当しない」ものとして判断され、出席扱い制度の適用が認められないケースがあります。

不登校児童の数は増加傾向にあり、文部科学省は、様々な施策に取り組んでいますが、目立った効果を上げられていないのが現状です。出席扱い制度は、事情があり学校にいけない子が受験の際、不利にならないための仕組みであり、問題の根本を解決する手段ではありません。

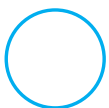
これから先、重要になってくるのは、不登校児童を増やさないための取り組みに加え、学校に戻りたいと思える仕組みを整えることでしょう。

子供が不登校になる理由は様々ですが、その問題を特定し、効果的なアプローチができれば、一定数は学校に復学できるはずですが。文部科学省はもちろんですが、学校や家庭が一丸となってこの問題に取り組み、右肩上がりが増え続ける不登校児童の数に歯止めをかけなければいけません。

子供は今後の日本を支えていく宝です。その宝を守るための労力を惜しむべきではないでしょう。

---

## 答え



引用部分が引用符（””）で明確に示されていることに加え、引用元の情報（サイト名、ページタイトル、ページ URL）が明記されているため。

※本文の黄色マーカー箇所（参照：Lesson1 テキスト P4）

## 課題

## 02

あなたが理想とする Webライターについて書きましょう。

※文字数：厳密な指定はありませんが、350～400字程度を目安にまとめてください。

※この課題は現時点での文章力チェックを兼ねています。自分にとってベストな文章を作成しましょう。

※本課題は「School × Work」および「School × Work Lite」講座収録の課題です。

「Start-up」講座の方はカウンセリングシートを合わせてご参照ください。

## 2-1 添削例

タイトル：私が理想とする **ウェブライター**<sup>①</sup>

**②**  
私が理想とするのは、第一に読み手を意識して、簡潔で読みやすい文章を書く **ウェブライター**<sup>①</sup>です。🔄

読み手を意識しない文章は、独りよがりです。🔄

第二にテーマに沿った文章を書くことができるライターです。🔄

テーマから外れたことを蛇足のように付け加えると、**⑤**何が言いたいのか読者に伝わらなくなってしまいます。

第三に正確な情報収集が出来て、かつそれを元にオリジナルの文章を作成することが出来るライターです。**④** 🔄

しかし一方、**⑤**あまり『技術』にこだわり過ぎると形式的になり、文章の魅力が損なわれることもあります。🔄

魅力的な文章を書くのに必要なのは、何より『感受性』と『表現力』だからです。**⑥**

なので、**⑦**最終的に理想的なライターとは、『感受性』と『表現力』の上に『技術』も備わっているライターだと思います。



## 添削ポイント

- **本文全体の文末表現（～です。～ます。）** ※添削例・青太字部分  
表現が重複しています。同じ表現を繰り返し使うと文章のリズムが悪くなり、読者に読みづらさを感じさせます。
- **読み手を意識しない文章は、／テーマから外れたことを／しかし一方** ※添削例・🔄  
前文の内容を詳しく紹介している文（関連している文）なので、改行しない方が自然。
- **魅力的な文章を書くのに必要なのは** ※添削例・🔄  
前文の内容と関連するので、改行しない方が自然。

## ① 表記の統一

設問で「あなたが理想とする Webライターについて」と書いているので、「Webライター」と表記を統一しましょう。

## ② 冒頭文

読み手に唐突な印象を与えないためにも、第一～第三までのポイントをまとめたリード文を挿入しましょう。(2-1 修正例 ①)

## ③ 言葉の意味

「蛇足」には「付け加える」の意味がすでに含まれているため、表現が重複しています。

## ④ ひらがなと漢字の表記わけ

動詞や副詞の「できる」はひらがなで表記します。

→ Lesson2 で詳しく学習します！

## ⑤ 逆接の接続詞

「しかし」は前文の内容を受け、それと反対の事を述べる場合に使う接続詞。

「あまり『技術』にこだわり過ぎると～」の文章は、前文の内容と反対のことを述べているわけではないので、接続詞として「しかし」を使うのは不適切です。

## ⑥ 唐突感のある文章

理由の説明がないため、唐突な印象を与えます。なぜ、「何より『感受性』と『表現力』」なのかを明記した方が読者に親切です。

## ⑦ 口語に近い表現

なので一つまり

## ⑧ 表現の重複

～「的」という表現が重複しています

## 2-1 修正例

私が理想とするのは、テーマを理解し、高い情報収集能力と表現力、そして簡潔でわかりやすい文章を書く力を兼ね備えた Webライターです。<sup>①</sup>

### Rewrite

Webライターは第一に、記事のテーマを正確に理解しなければいけません。なぜなら、テーマから外れてしまうと、読者の期待と記事の間にギャップが生まれ、独りよがりの文章になってしまうからです。そして、様々なテーマで記事を書くため、情報収集も重要なポイント。Webライターには、高い情報収集能力と調べた情報をもとにオリジナルの文章を作成できる表現力が必要です。

その上で、簡潔で読みやすい文章を書く力を身に付けることができれば、私が理想とするWebライターに近づけると考えています。

技術にこだわり過ぎると、形式的な文章になり、言葉が魅力を失ってしまうため、技術を磨きつつ「人の心を惹け付ける」文章を書けるようになることも目標の一つです。

---

## 改善ポイント

---

- 文末・文章表現の重複を避ける。
  - 改行の位置に注意。(段落を意識しましょう)
  - 文章の流れ・構成：記事の概要(冒頭) → 各センテンスの説明(※時系列や重要度順に説明) → まとめ
-



### 2-2 添削例

タイトル：読み手を惹きつける文章を書く

①  
同じテーマで書かれた記事でも、書き手によって読み手が受ける印象は異なる。両者の視点や意見の違いがあるのはもちろんのことだが、文体やことば選びが大きく関わっているように思う。それによって、書き手と読み手の距離感や温度差が変わってくるからだ。新聞記事のように、伝えるべき内容をわかりやすくまとめることも必要だが、それだけでは無機質だ。かと言って、個人ブログのように書きたいことを感じたままに書くのでは、読み手が<sup>②</sup>なおざりになってしまいそうである。

テーマに沿った情報を<sup>③</sup>収集し、意見をわかりやすくまとめる。そのうえで、どのような文体とことばを選べばよいのかを常に検討する必要がある。手間を惜しまず模索してこそ、読み手を惹きつける文章に仕上がるのではないだろうか。<sup>④</sup>

#### ① 読者を惹きつける書き方

「印象は全く異なる」というように、強調表現を入れることで読者を1文目から惹きつけることができます。

その上で、「もちろん」を2文目の最初に移動させると、以下の文章のリズムが良くなり、より読みやすくなるでしょう。

#### ② 言葉の意味

「なおざり」にすべきか、「おざなり」にすべきか判断を迷うところです。自分のためだけに書いたブログの文章であれば「なおざり」が良いと思いますが、読者がいて、それを多少なりとも意識して書いた文章なら「おざなり」が適切でしょう。「なおざり」が間違っている訳ではありませんが、「おざなり」に修正しています。

参考：「おざなり」？「なおざり」？  
<https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/kotoba/term/075.html>

#### ③ 主語の不在

まとめの文章ですので、主語を省略せずに書いたほうが、読者を惹きつけることができるでしょう。

(2-2 修正例 ①)

#### ④ 目的語の不在

「手間を惜しまず〇〇を模索してこそ」の目的語（〇〇を）を追加したほうが、より内容が具体的になり読者を惹きつけることができるはずです。

(2-2 修正例 ②)

## 2-2 修正例

同じテーマで書かれた記事でも、書き手によって読み手が受ける印象は全く異なる。もちろん両者には視点の違い、意見の違いがあるわけだが、それ以上に文体やことば選びが大きく関わっているように思う。つまり、その違いによって書き手と読み手の距離感や温度差が変わってくるのだ。

### Rewrite

新聞記事のように、伝えるべき内容をわかりやすくまとめることも必要だが、それだけでは無機質な印象を与えてしまう。かと言って、個人ブログのように、自分が感じたままに書くのでは、読み手がおざなりになってしまうだろう。

優れたライターになるためには、テーマに沿った情報を収集し、意見をわかりやすくまとめる力を身に付けることが最低条件。そのうえで、どのような文体とことばを選ぶとよいかを検討する必要がある。手間を惜しまず理想とするライター像を模索し続けるからこそ、読み手を惹きつける文章を書けるようになるのではないだろうか。

---

## 改善ポイント

---

- 助詞の使い方
  - 内容にあった言葉の選択
  - 適切な位置での接続詞や強調表現の使用
  - テーマに合わせた文体（※今回は「読み手を惹きつける」というテーマでのライティングのため、もう少し文体を柔らかくするのも良いでしょう。）
-



# Webライター 養成講座

produced  
by Hayakawa

---

## 添削事例集 Lesson2

---

※一部抜粋



# 課題

## 02

あなたが好きな本について、「文語」「敬体」を用いて、読んだことがない人にも魅力が伝わるように紹介してください。(400字程度)

※書名／著者名／紹介文



### 本紹介のポイント

特に決まった紹介順(展開順)があるわけではありませんが、本の魅力を紹介する際は、以下の流れで紹介するとスムーズです。

#### 著者情報・作品の受賞歴

- ・著者の簡単なプロフィール
- ・同じ著者の他の有名作品の紹介
- ・作品の受賞歴(例:直木賞、本屋大賞 など)  
例)『蜜蜂と遠雷』は、『夜のピクニック』や『六番目の小夜子』等の著者としても知られる恩田陸の著書。第156回直木三十五賞、第14回本屋大賞をダブル受賞した作品です。

#### 作品のたまかなあらすじ

##### 作品の魅力 その1

作品の魅力とその理由

##### 作品の魅力 その2

作品の魅力とその理由

##### まとめ

こんな人におすすめ、読後に得られる知識や効果など

### 2-1 添削例

書名:『アメリカン・ブッダ』

著者名:柴田勝家

紹介文(400字程度):

『アメリカン・ブッダ』は、2014年に『ニルヤの島』でデビューしたSF作家である柴田勝家の著書<sup>①</sup>。2020年に発表され、第52回星雲賞日本短編部門を受賞した作品です<sup>②</sup>。

舞台となる近未来のアメリカを大災害が襲います<sup>③</sup>。大部分の国民は仮想空間内に精神を移し替え、そこで社会生活を営む選択をしました。ある日<sup>④</sup>、見捨てたはずの現実世界から、仏陀の教えを信仰するインディアンの青年が語りかけます<sup>⑤</sup>。「脅威は去った。貴方たちは帰ってきてても良いんだ」と――。

#### ① 文章の読みやすさ

文章の要素が多過ぎるので少しわかりにくい印象を受けます。「デビューしたSF作家・柴田勝家」とすると良いでしょう。

#### ② 主語の省略

文章の流れが単調なので、書き出しを「本作は、」とし、主語を省略せずに書いたほうが良いでしょう。(2-1 修正例 ①)

#### ③ 文章のリズム

「舞台は近未来のアメリカ。」で一旦文章を区切ったほうがリズムよく読める文章になります。

#### ④ 場面の展開

場面展開を意識し、ある日の前に「そんな」を加えると良いでしょう。

#### ⑤ 補助動詞の用法

「かけます。」よりも「かけてきます。」の方がしっくりきます。

本書で描かれる大きなテーマの1つは、社会の分断です。大災害が起これ、社会集団は利害の対立によって分断されます<sup>⑥</sup>。仮想空間内でも、青年の言葉によって世論が割れ、対立意見を排斥する動きが激化することに<sup>⑦</sup>。大災害の発端が流行病の蔓延であることから<sup>⑦</sup>、この分断はコロナ禍の世相を反映しているという解釈も可能です。

この困難に対し、青年は何を語るのか。そして社会はどう克服するのか。コロナ禍を抜け出しつつある今、社会の向かう先を確かめるために読んでおきたい作品です。

## ⑥ 違和感のある表現

「分断されます」という日本語表現には若干違和感があります。「大災害をきっかけに、社会集団は利害が対立し分断が発生。」とするとすっきりまとまるでしょう。

## ⑦ 似通った表現の連続使用

「すること～あること」と似通った表現が続くので、別の言葉に置き換えた方が洗練された文章になります。(2-1 修正例②)

## ⑧ 表現の推敲

「確かめるために」と書くと、この作品が書いている未来が私たちの確定した未来のような印象を受けます。実際には様々な可能性があるので、「考察する意味でも」等の表現に置き換えた方が良いでしょう。(2-1 修正例③)

## 添削ポイント



400文字という文字数の目標を意識し、課題を仕上げた点は素晴らしいです。文字数は多過ぎても少な過ぎてもNGです。大筋はよく書けていますが、細部にまだ課題があり、修正できる点が多くありました。安易に主語や目的語を省略せず、初めて記事を読んだ読者でも違和感なく読める文章を意識しましょう。

## 2-1 修正例

『アメリカン・ブッダ』は、2014年に『ニルヤの島』でデビューしたSF作家・柴田勝家の代表作。本作は2020年に発表され、第52回星雲賞日本短編部門を受賞しています<sup>①</sup>。

舞台は近未来のアメリカ。未曾有の大災害がアメリカを襲うなか、大部分の国民は仮想空間内に精神を移し替え、そこで社会生活を営む選択をしました。そんなある日、見捨てたはずの現実世界から、仏陀の教えを信仰するインディアンの青年が語りかけてきます。「脅威は去った。貴方たちは帰ってきてても良いんだ」と――。

本書で描かれる大きなテーマの1つは、社会の分断です。大災害をきっかけに、社会集団は利害が対立し分断が発生<sup>②</sup>。仮想空間内でも、青年の言葉によって世論が割れ、対立意見を排斥する動きが激化します。大災害の発端が流行病の蔓延であることを考えると、この分断はコロナ禍の世相を反映しているという解釈も可能です。

この困難に対し、青年は何を語るのか？そして社会はどう課題を克服するのか？コロナ禍を抜け出しつつある今、社会の向かう先を考察する意味<sup>③</sup>でも読んでおきたい作品です。

Rewrite